

[江別市] 施策達成度報告書

政策 01 環境と調和する都市の構築  
 施策 03 水とみどりの保全と創出活用

主管課：環境室環境課

施策の目的

市民・事業者・行政の協働により水と緑が豊かで、快適なまちを目指します。

対象(誰を対象とした指標か)

意図(対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

自然環境(緑資源・水資源)、市民、事業者、行政	水とみどり豊かなまちになっている。
-------------------------	-------------------

施策の目的をあらわす指標の動き(成果指標)

施策の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	後期 目標値
緑に親しめる空間があると思う市民割合	%	82.7	85.5	-	85.4	84.5	87.5	↗
水に親しめる空間があると思う市民割合	%	62.8	67.6	-	65.9	66.2	68.9	↗

施策の達成状況(25年度)

後期目標の達成状況について、「緑に親しめる空間があると思う市民割合」は、各年度によって波があるものの、この5年間では着実に上昇しており初期値と比べても好結果となっており目標は達成できた。野幌森林公園を有する大麻地区の割合が9割を超えるなど、地域の特性が感じられるところではあるが、市民団体が行う緑化事業に対する樹木及び資材の提供をはじめ、保存樹木等の巡回観察など緑の保全と啓発活動を行ってきたこと、また花のある街並みづくり事業の実施による身近な植物から自然を感じ取ることができたことが増加要因と考える。

「水に親しめる空間があると思う市民割合」についても、初期値と比べると着実に増加しており目標達成できたところである。これは環境教育や市民講座のほか、小学生高学年を対象とした夏休み環境学習で水環境の保全について啓発したことや行政の排出基準等監視による水質の保全などが功を奏したと考える。

市民の憩いの場となる森林や水辺の保全は快適な住環境に不可欠であることから、今後とも市民・事業所と共に保全に取り組んで行く。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度決算額	24年度決算額	25年度決算額
トータルコスト(千円)	24,707	32,504	33,524	38,000	37,951
事業費(千円)	11,015	17,593	18,274	21,165	21,542
人件費(千円)	13,692	14,911	15,250	16,835	16,409

**基本事業**

**01 水とみどりの保全**

**基本事業の目的**

市民と事業者、行政が協働して地域の水と緑を守り、身近な自然環境や水辺環境を守ります。

**対象(誰を対象とした指標か)**

**意図(対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)**

自然環境、市民、事業者

水と緑を守る。  
身近な自然環境や水辺環境を守る。

**基本事業の目的をあらわす指標の動き(成果指標)**

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	後期 目標値
地域制緑地(緑地保全地区等)面積	ha	5,240	5,240	5,240	5,240	5,406	5,406	5,240

**基本事業の達成状況(25年度)**

後期目標の達成状況について、後期目標値は初期値を下回らないように緑を保全することであったが、法や条例に基づいて指定されている「地域制緑地(緑地保全地区等)」の面積は、国の石狩川水系千歳川河川整備計画に基づく事業実施により、河川区域に指定された江別太遊水地が加算されたため大きな増加となった。

緑化推進条例で指定している保存樹木等は、市の定期的な巡回観察や所有者の適切な管理によって保存がなされている状況であることから、引き続き所有者に保全の協力を求めるほか、市民植樹などの啓発活動を継続することで緑地等の保全意識を醸成し緑の減少を抑制していく。

水辺環境については、市民アンケートで「水に親しめる空間がある」と回答した市民が約7割であることから、引き続き身近な水辺の保全に取り組んでいく。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度決算額	24年度決算額	25年度決算額
トータルコスト(千円)	3,277	4,531	4,950	11,821	12,902
事業費(千円)	788	904	937	3,805	5,088
人件費(千円)	2,489	3,627	4,013	8,016	7,814

## 基本事業の目的

市民・事業者が、木や花を植えるなど緑を育てるとともに、水辺を活用し水と緑を感じ、ふれあうことにより、潤いのある緑豊かなまちづくりを目指します。

## 対象(誰を対象とした指標か)

## 意図(対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

自然環境、市民、事業者	緑を育てる。 緑を育み、緑豊かなまちづくり。
-------------	---------------------------

## 基本事業の目的をあらわす指標の動き(成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	後期 目標値
花のある街並みづくり事業の参加団体数	件	106	106	109	107	103	104	120
自宅で緑を育てている市民割合	%	59.4	55.7	-	56.3	54.0	54.1	↗

## 基本事業の達成状況(25年度)

後期目標の達成状況について、「花のある街並みづくり事業の参加団体」は、一時的に増加したものの5年間では減少傾向となった。このことは自治会などの高齢化により担い手が少ないこと、また花壇の無い自治会もあることが参加団体増に繋がらなかったと考える。今後は花壇の維持管理の負担軽減化など、参加団体の増加のに向けた取り組みを検討していく。

「自宅で緑を育てている市民割合」は5年間で約5%減少する結果となった。これは高齢者の構成比が高く、若年層の底上げが見られないことが原因と考えられる。若年層の住環境事情で草木を育てられない現実も考慮しつつ、室内で緑を感じることができる鉢植え等、空間に応じた緑のあり方を提案、周知・啓発を進める必要がある。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度決算額	24年度決算額	25年度決算額
トータルコスト(千円)	16,830	21,992	21,624	18,848	19,864
事業費(千円)	8,117	13,126	12,795	12,434	13,613
人件費(千円)	8,713	8,866	8,829	6,414	6,251